第４回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議補助報告書

資料 No.	＜SC3D 関係＞国際会議報告書
4-3／SC3D-① 再提出	SC3D/WG2「電子部品のデータ要素」鹿児島県指宿会議 経費収支報告書 20070703-20070705
資料 No.	＜SC47E 関係＞国際会議報告書
4-3／SC47E-①	SC47E/WG3「個別半導体／パワーデバイス」フランクフルト会議報告書 20070730-20070731
資料 No.	＜SC62A 関係＞国際会議報告書
4-3／SC62A-①	SC62A/JWG3「医療機器共通事項／ソフトウエア」ローノーク会議報告書 20070910-20070911
4-3／SC62A-②	SC62A/JWG7「医用電気機器／共通事項」ローノーク国際会議報告書 20070911-20070913
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議報告書
4-3／TC80-①	TC80/WG8A オーストラリア　キャンベラ国際会議報告書 20070816-20070824
4-3／TC80-②	TC80/WG11 英国ロンドン国際会議報告書 20070905-20070907
4-3／TC80-③	TC80/WG4A ドイツ　ハンブルク国際会議報告書 20071009-20071010
資料 No.	＜TC93 関係＞国際会議報告書
4-3／TC93-①	TC93 & WG1、WG2、WG3、WG5、WG6、WG7、JWG11「デザインオートメーション」ガイザーズバーグ(メリーランド州)会議報告書 2007/09/03-2007/09/07
資料 No.	＜TC100/TA5 関係＞国際会議報告書
4-3／TC100/TA5-① 再提出	TC100/TA5「ケーブルネットワーク」JEITA 会議室経費収支報告書 20070723
資料 No.	＜TC110 関係＞国際会議報告書
4-3／TC110-①	TC110、TC110/WG2、WG4、WG5「フラットパネルディスプレイ」中国広州会議報告書 2007/09/03-2007/09/05
資料 No.	＜CISPR 関係＞国際会議報告書
4-3／CISPR-①	CISPRI/WG2「マルチメディア機器等に関する EMC」デンバー国際会議報告書 20070827-20070830
資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議報告書
4-3／SC31-① 再提出	SC31/WG4/SG1「自動認識及びデータ取得技術」葉山町（湘南国際村センター）会議経費収支報告書 20070718-20070720

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC3D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中
提出日：2007 年 8 月 6 日

（報告者記載）整理番号：H19SC3D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：南野　典子　　報告書作成者氏名：　南野　典子　（会社名）（株）東芝

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	SC3D (半角)
SC3D/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
SC3D/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	電子部品のデータ要素
JWG	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
open forum	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	

開　催　期　日	2007 年 7 月 3 日 ～ 2007 年 7 月 5 日	
開　催　場　所	（国名）日本	（都市名）鹿児島県指宿市
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Addie Dijkstra	幹事国　オランダ
参　加　国及び 参　加　人　数	7 ヶ国、主な国名 日、英、蘭、独、参加人数（17）	
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ 堀内一（東京国際大学）、南野典子（東芝）、佐藤一巳（ソニー）、村山廣（東芝）、本田敏郎（ソニー）、ジョンマッキン（RNJ）、高橋満（日立）、荒木純夫（VPI）、石川敦（JEITA）、三谷脩（JEMIMA）、谷部貴之（JEMA）、大和久吾郎（JEMA）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

今回は、リエゾン関係が深い ISO TC184/SC4 と同時期同所で開催した。ISO/SC4/WG2 と SC3D/WG2 は一部出席者が重なってはいるが、どちらか一方にのみ出席しているメンバーも多い。それぞれ年に三回、欧米を中心に会議を開催するため、特に日本人にとっては両方の会議への出席は難しかった。今回の日本開催では、多くの関係者が一堂に会し、有意義な会議を行うことができた。以下、各会議についての報告を行う。

【SC3D/WG2】

・IEC61360-4（電気電子部品の辞書）に対する CR（Change Request）：
設置環境に関するプロパティの提案である CR9 については、3 月の Evaluation で否決されていたが、その後の取り扱いについてはまだ決められていない。今回も意見がまとまらず保留となった。また、TC47 からの案件（CR10-12）についても議論があり、TC47 のメンバーでもある SC3D 議長がもう一度説明資料を用意することになっている。なお、本 Evaluation の〆切りは 7 月 25 日。

・データベース規格の多言語化：
TC3 として対応していくことになっていたが、IEC61360-4 についてもドイツ語でのテストサイトが作成され、今回紹介された。

・幹事国の交代
オランダが幹事国を降りることになり、次の幹事国の募集が行われていたが、立候補がドイツからあり、現在、信任投票中であることが紹介された。（会議終了後、日本は賛成で投票。）

【SC3D/WG2 JWG】

ISO TC184/SC4/WG2 との JWG。ISO 側から ISO/IEC ダブルロゴ規格のデータモデルの分冊 ISO13584-42/IEC6136-2 の Edition2 の DIS 版の準備を行っている。今回は DIS 版と CD 版との相違点の紹介が行われた。IEC 側からもデータモデルについては数点リクエストを提出した。その他、辞書のメンテナンス（各辞書要素のステータス）、辞書の妥当性検証方法、交換フォーマット、コピーライトについて、時間が限られていたため議論は控え、情報交換を中心におこなった。また、今後の両 WG の会議方針として、それぞれ年三回ある会議のうちの一回については、合同で行うことで合意した。SC3D/WG2 の場合は、三回のうちの秋の会議は IEC 総会と同時開催のため、それ以外の 5 月或いは 2 月を合同会議に充てる。

【辞書オープンフォーラム】

辞書のメンテナンス、コピーライトの問題を中心に発表が行われた。発表は ISO/CS の猿橋氏のほか、IEC/SC3D 辞書メンテナンス、日本発の計測器規格 ISO13584-501 の RA（Registration Authority）による辞書メンテナンス、JEITA/ECALS、等々からの発表が行われた。ISO では辞書については無償配布・利用を可能とする方向で進んでいる。次回の IEC/SC3D は、TC3 と同時開催、11 月にパリで行われる。

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC3D-①（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2007 年 8 月 6 日
予算番号：	H19SC3D①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　SC3D
　　名　称（日本語）　電子部品のデータ要素
2. 会　　議　名：　SC3D/WG2（☐単独開催　☒同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☒その他
3. 開 催 期 日：　2007 年 7 月 3 日 ～ 2007 年 7 月 5 日
4. 開 催 場 所：　鹿児島県　指宿市

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	113,865 円	会議場	150,000 円
JEITA/EC センター	90,649 円	会議費	87,500 円
APC	80,149 円	機材レンタル	22,610 円
	円	レセプション費用	22,680 円
	円	雑費	1,873 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	284,663 円	合計（b）	284,663 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー10 人＋外国人 7 人）］×会議開催日数 3 日×1.5 万円＝765,000 円

補助請求金額　113,865 円
［補助基準･運用規定の補助率（40 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2007 年 8 月 6 日
申請責任者：　南野　典子

※本報告書は、**(様式4)「国際会議報告書」**に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC47E-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 9 月 6 日

（報告者記載）整理番号：H19SC47E⑪

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：石井　一史　報告書作成者氏名：　古賀　健司　（会社名）(株)日立製作所

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47E (半角)
SC47E/WG3	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	個別半導体、パワーデバイス
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開　催　期　日	2007 年 7 月 30 日 ～ 2007 年 7 月 31 日		
開　催　場　所	（国名）独国	（都市名）フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	古賀 健司(SC47E/WG3)	幹事国　韓国	
参　加　国及び 参　加　人　数	3 ヶ国、主な国名 英国、ドイツ、日本、参加人数（6）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古賀健司(日立)、○宮下秀仁(富士)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景･目的：60747-7Ed3(BTR), 60747-15Ed2(Isolated Power Semiconductor Devices)それぞれの CD に対する各国コメント審議。(1 ヶ月前にニュルンベルグにて同様の審議を行ったが時間が足らなかったため、その続きの審議)

成果と課題：

1．60747-7Ed3(BTR)：トランジスタシンボル確認
前回のニュルンベルグ会議で懸案事項となったトランジスタシンボルにつき、IEC60617 を調査し、NPN トランジスタのシンボルを確認、決定した。

2．60747-15Ed2(Isolated Power Semiconductor Devices)：CD コメント審議
前回のニュルンベルグ会議で終了しなかった測定法以降の 47E/322A/CD の各国コメントにつき審議を行った。
本件は JEC-2407 ”絶縁型パワー半導体モジュール ” と整合を取るため、多数の日本コメントを提出している。
基本的に読者が分かり易くと言う考えで、モジュール内の回路図等より具体的な提案を行っているが、原理原則に基づき規格は作成すべきとの意見があり、余り賛同が得られなかった。但し、測定素子の具体的な図については日本案をベースに変更が加えられた。また、付録として Ed.1 からある回路接続方法の細かな説明については削除することにした。

3．60747-7Ed.3(BTR)、60747-8Ed.3(FET)、60747-15Ed.2(Isolated Power Semiconductor Devices)の次のステップについての確認
3 件の審議が終了したので、Kim 幹事に Observation 案を 8 月中に送付することにした(60747-8Ed.3 については 7 月に送付済)。その後 Kim 幹事から正式な Observation を CO に送付して貰い、それに基づき各 PL は規格を修正する。修正規格を CDV として Kim 幹事から CO へ送付して頂くことを確認した。

4．次回の WG3 会議について
2007/11/5～9、ツールーズにて開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：4-3／SC62A-①（事務局記入）

提出日：2007 年 9 月 23 日

（報告者記載）整理番号：H19SC62A⑪

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：　中里俊章　（会社名）東芝（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC 62A (半角)
JWG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	医用電気機器/共通事項
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2007 年 9 月 10 日 ～ 2007 年 9 月 11 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）ローノーク	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Sherman Eagles	幹事国　米国	
参　加　国及び 参　加　人　数	5 ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、カナダ、英国、日本、参加人数（14）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 三浦重孝(サクラ精機:ISO)、○中里俊章(東芝メディカルシステムズ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景・目的]

ISO 14971(IEC 62304:2006 の引用規格)を医療機器のソフトウェアに適用していくためのガイダンスとなる IEC TR 80002 Ed.1.0("Medical device risk management - Guidance on the application of ISO 14971 to medical device software"）CD の第 2 回審議に出席したので、主な審議、決定事項を報告する。

[議事・内容]

1．タイムライン：07/3 審議開始、07/12？ 1CD、08/11 CDV、09/9 FDIR、09/11 TR
次回　07/12（ワシントン DC）会議予定（1CD はこの後になる）

2．議事：

前回の決定に従い、体を ISO 14971:2006 の章立てにしたがって見直された原案を審議し、IEC62304 の引用・解説を表形式にすることなど以下の決定を受けて再修正をかけることになった。

・ソフトウェア自体ではハザードにならないことから、"Software hazard"ではなく"Software related hazard"という用語を使う。これにより、全体として矛盾しないよう見直す。

・原案にある"Safety related""Non safety related"の分類が IEC62304 でいう安全クラスと一貫性がない、またリスクの発生確率を 100%とするという IEC62304 の考え方がベースにないため、この部分を見直す。

・前回決定した執筆担当の文章をマージした状態であり、全体の一貫性を図る必要がある。

・"Pitfall"として、否定的な文章で具体例を示しているが、これを積極的な望ましい姿として埋め込む。

3．感想：

ソフトウェア自体の不具合によるハザードとソフトウェアに関連した（related）ハザードが判然としないまま議論され、結論が定まらないことが多く、本案件のガイドライン化の困難さを感じる。

4．その他

IEC 62304 に関する動き

・医療機器指令（MDD）が 9 月末に発効され、移行期間を 18 ヶ月（～2009/3）となるようだ。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（(三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
IEC 活動推進委員会　御中

運営委員会・資料番号：4-3／SC62A-②（事務局記入）

提出日：2007 年 10 月 5 日

（報告者記載）整理番号：H19SC62A⑬

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：　神谷正樹　（会社名）東芝（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC 62A (半角)
JWG7	☒TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	医用電気機器/共通事項
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	

開　催　期　日	2007 年 9 月 11 日 ～ 2007 年 9 月 13 日	
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）ローノーク
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Sherman Eagles / Todd Cooer	幹事国　米国
参　加　国及び 参　加　人　数	5 ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、カナダ、英国、日本、参加人数（27）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○神谷正樹（東芝メディカルシステムズ）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景・目的]

・会議に先立って、前回５月にドイツ　ライプチヒで開催された JWG7 国際会議の議事録が承認された。スケジュール自体の変更はないが、1ST CD に対するコメントの締め切りが、11/15 と変更された。

[議事・内容]

1．IEC80001 規格（Annex）の構造についての投票（2007/8/10）の結果、80001-1 のような形で、FollowUpDocument を追加していくこととなった。

2．IEC80001 の 1STCD に対するコメントが、11/15 に変更されたが、規格化自体のスケジュールの変更は現時点ではない。規格化への作業の加速のため、TaskGroup に分けて進める。

TaskGroup1：
目的：IEC80001 の RoadMap を明確化する。
FollowUpDocument の範囲を明確化する。現時点での FollowUpDocument の対象は、以下のとおり。
Technologies/Topologies/Method

TaskGroup2：
目的：Additional Topic, new work item, Guideline 等を企画する。

TaskGroup3：
目的：Technologies の範囲を規定する。最初の対象は、Wireless。

今後、TaskGroup 毎にオフラインでミーティングを行う。次回は、2008/1/16-18　米国サンアントニオ。
2008/2/M に、各サブグループごとのアウトプットをドキュメントにまとめる。

［今後の予定］

・2008/1/16-18　米国サンアントニオ市にて上記 TaskGroup 毎のミーティングを実施。
・2008/5/E に、スウェーデンにて、次回 JWG7 合同委員会を開催予定。

以上

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　標準化センター
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（(三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2006.3)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 9 月 4 日

（報告者記載）整理番号：H19TC80⑪

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内崇雅　報告書作成者氏名：矢内崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG8A	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	船舶搭載用 AIS
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2007 年 8 月 16 日 ～ 2007 年 8 月 24 日		
開催場所	（国名）オーストラリア	（都市名）キャンベラ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Steward/Peggy Browning	幹事国 UK	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 日本、オーストラリア、UK、ドイツ、スウェーデン、米国、カナダ、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古山 賢二(日本無線)、○矢内 崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1　背景:本会議は 2007 年 5 月の TC80 総会にて承認された AIS に関するすべての標準化作業の統合化を図り、IEC として IMO を含む関係団体との協調性の向上と作業能率向上を目指し、新たに AISWG との名称にてこれまでの WG8A と WG14 が担当していた標準化案件を一元的に処理していくことで推進を図る。

2　目的：WG8A と WG14 で担当していた作業項目の再スケジュール化、WG8A での 80/457/RVC にて Reject された IEC61993-2 Ed.2 CDV 案の作成及び IEC62320-2 Ed.1 AIS AtoN Station の Resolution を優先的に実施をする。

3　成果：（1）AISWG としての作業項目とその優先順位を以下の様に決定した。①IEC62320-2 Ed.1 AIS AtoN Station CDV Resolution、②IEC61993-2 Ed.2 AIS Class A、③IEC62287-2 Ed.1 AIS Class B"SO"、④IEC62320-1 PAS100 AIS Base Station、⑤IECxxxx AIS-SART、⑥IEC62320-3 Ed.1 AIS Repeater Station、⑦IEC62320-4 Ed.1 AIS LimitedaseStation

（2）今回の会議での作業成果は以下の通りである。

・IEC62320-2 Ed.1 AIS AtoN Station の CDV Resolution は CDV への日本、米国、ドイツ英国及びスウェーデンからのコメントに対して検討を行い、必要事項についてはドキュメントの加筆・訂正を行い、FDIS 案を作成。2007 年 11 月の FDIS の回章を目標に TC80 Secretary への必要資料の提出を行う。

・IEC61992-2 Ed.2 AIS Class A の CDV 案について、各国からの追加コメントとこれまでに発行されたドキュメントとの整合性について再度内容の見直し検討による加筆・訂正を実施。2007 年 10 月には CDV 案を TC80 Secretary に提出をする。

・IEC62287 Ed.1 AIS Class B の CDV 案について、内容の見直し検討を行い、2007 年 9 月末までに PL による最終の CDV 案を作成することにした。

・ IEC62320-1 AIS Base Station の改訂(PAS100 として)検討として、PI センテンスに関するテスト要件を中心に、前回の Montreal 会議に引き続いて精緻化作業を行った。本変更はセンテンスに関する規格を取纏めている WG6 との関係もあり、AISWG としての改訂ドキュメントの最終案の取纏め検討を 2007 年 10 月の Seattle 会議にて実施することにした。

4　今後の会議予定：第 2 回 AISWG は 2007 年 10 月 8 日～　米国　シアトル、WG6 との Adhoc 会議は 2007 年 12 月 10 日～、第 3 回 AISWG は 2008 年 2 月 18 日～　シンガポール又は IALA 本部

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル)　Tel:03-3518-6435　Fax:03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC80-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 9 月 10 日

（報告者記載）整理番号：H19TC80⑭

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG11	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	航海情報記録装置
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 □同時開催	
開　催　期　日	2007 年 9 月 5 日 ～ 2007 年 9 月 6 日		
開　催　場　所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Hubertus Wentzell	幹事国　英国	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 英国、ドイツ、カナダ、スウェーデン、オランダ、日本、参加人数（13）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 田北 順二(日本無線)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1）VDR の IEC 規格 IEC 61996-1 Ed1 と S-VDR の IEC 規格 IEC 61996-2 Ed2 の CDV に対する各国コメントについて審議し、FDIS 案を作成した。各国からネガティブなコメントがなく、賛成の投票が寄せられたことがら、FDIS を省略し、年内には、IEC61996-1(VDR), 及び IEC 61996-2(S-VDR)国際規格 が発行されることになった。

2）日本から提案した技術的内容のコメントの審議結果は、次のようになった。

①Annex C に FireWire インタフェースを追加すべきとのコメントについては、IMO 性能基準では、インタフェースの例として FireWire を示したものであり、要件として FireWire を要求しているものではなく、また市販のＰＣにおいて、FireWire がイーサーネットや USB に比べてマイナーなインタフェースになりつつあり、規格には、広く入手可能なインタフェースのみを記載すべきであり、事故調査官のＰＣ選択に制限を加えるようなインタフェースは記述すべきでないとの理由で、この提案は採用されなかった。

②Annex C C.4.2 マルチプル・ダウンロードの要件を削除する提案は、ダウンロード元が、カプセルのデータではなく、カプセルからコピーしたデータとのことで、拒否されたが、誤解を招く文章があるとのことで、C.4.2 の文章が修正された。

②5.8.1.2 レーダの映像入力信号の仕様に 1600 X 1200 60Hz を追加する日本コメントは、各国代表の賛同を得て、そのまま採用された。

③その他、エディトリアルな日本コメントが採用された。

3）IMO MSC 83 にドイツやエジプト等から提案されている IMO 性能基準の改正提案については、 IMO での審議状況を注視し、IEC 規格の準備をすることになった。また、各国からの性能基準改正の提案については、業界（機器メーカ）からの入力文書の提出が重要との意見があった。

4）本年度の会議開催予定：　特になし。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC80-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 15 日

（報告者記載）整理番号：H19TC80③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内崇雅　報告書作成者氏名：矢内崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC80(半角)
WG4A	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	GNSS（全地球的航法システム）
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 10 月 9 日 ～ 2007 年 10 月 10 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ハンブルグ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jhn Klepsvik	幹事国　ノールウェー	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日本、ノールウェー、ドイツ、参加人数（5）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○田北 順二（日本無線）、○矢内 崇雅（沖電気工業）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景

世界の GNSS(Global Navigation Satellite System)として Galileo システムの運用開始が 2010 年とアナウンスされていることから、Galileo 衛星対応の航法システムに組み込む必要のある受信装置の IEC 規格が必要となった。

2．目的

2007 年 5 月の前回会議にて検討された IEC61108-3 の 2008 年当初に関係機関/団体と関連委員への CD 回章を行うためにバージョンアップを図る。

3．成果

1) 本IEC61108-3　Ed.1の開発スケジュールが現時点での Galileo システムの運用に向けたスケジュールとの整合性に関しての確認を行った。Galileo 衛星の打ち上げ計画は 2009 年に 4 衛星でのシステム評価、2012 年までに 30 衛星での正式運用。（2012 年が 2013 年になる模様とのこと）IEC61108-3　Ed.1 は 2010 年 6 月の IS 発行。

2)GNSS としての Differential　Correction データフォーマットに関して、9 種類のフォーマット番号及びコンテンツに関して RTCM との調整が成功したことを受けて､本 CD への盛り込みと ITU-R M823 での規格化作業を進める。

3) Galileo システムのサービスとして①一般的サービス（GPS と同じ）、②商業的サービス、③生命の安全性のためのサービス及び④公的規制のサービスがあり、IEC61108-3　Ed.1 では①と③のサービス対応の機能・要件とする。

4) 2007 年 5 月の WG6 との会議にて議論をした PI センテンスの検討を行い、①Configuration 用として 2 種類、②GNSS 用として 3 種類及び③既存の GPS 対応の改版として 11 種類としたが､アラーム用等については次回とした。

5)Galileo システムは 3 周波数での測位が可能となることから、Galileo 受信機での測位精度に対して、①100m 以内、②10m 以内、③5m 以内、④1m 以内及び⑤0.1m 以内の Configuration が設定できる要件とした。

6)2007 年 5 月の会議結果を受けての IEC61108-3 WD-V.4 に対して、今回の検討結果による修正版、WD-V.5 を作成し、今後は議長が本 Working Document V.5 のクリーンアップ版を回覧し、WG 関係委員よりのコメントに基づいて CD 案を 2007 年末までに作成することになった。

7)今後のスケジュールは、①2007 年中に CD 案を作成。②2008 年当初に関係機関/団体及び委員への回章。③2008 年末に IEC61108-3 Ed.1 として CDV を回章。従って 2008 年に 1 ヵ年を掛けて議論を行う。

4.今後の会議予定

次回会議：2008 年 2 月又は 3 月　英国　ロンドンを予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

（社）電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会　御中

運営委員会・資料番号：4-3／TC93-①（事務局記入）

様式 4

提出日: 2007 年 9 月 26 日

（報告者記載）整理番号：H19TC93①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：山田 節　報告書作成者氏名：山田 節　（会社名）三洋電機株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC93 (半角)
TC93	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
WG1,WG2,WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	デザインオートメーション
WG5,WG6,WG7	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
JWG11	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2007 年 9 月 3 日 ～ 2007 年 9 月 7 日	
開催場所	（国名）米国	（都市名）ガイザーズバーグ(メリーランド州)
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	TC93 ﾁｪｱﾏﾝ：唐津 治夢、 WG2 ｺｺﾝﾍﾞﾅ：小島 智、 WG6 ｺｺﾝﾍﾞﾅ ：高橋 満、 WG7 ｺｺﾝﾍﾞﾅ ：唐津 治夢、	幹事国　米国
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日本、米国、韓国、参加人数（15）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○唐津治夢（SRIインターナショナル）、○神戸尚志（近畿大）、○古井芳春(STARC/ソニー)、○小島（NEC システムテクノロジー）、○高橋満(日立)、 柴田明一（JPCA）、○山田節(三洋電機)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

<背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述言語、機能や環境データの流通方式、等の標準化ニーズが大。
<目的>TC93 が先行実施している IEC/IEEE デュアルロゴ標準手順の定着迅速化、P メンバー国参加増、エキスパート確保、活動活性化、等の課題認識を踏まえつつ、上記標準に対する日本のニーズ織込みを図る。
＜成果＞TC93 国内委員会は JEITA や JPCA 等の関連委員会との緊密な連携をもって活動展開しており、今次会議においてもこれらの活動実績と業務実態を踏まえた標準化案件の絞込みや要件整理を進め、今後の方向を明らかにするなど会議を主導した。更に P メンバー国増の施策展開の一環として今次会議への韓国のオブザーバ参加を実現した。

・WG１：デュアルロゴ(Verilog,SystemVerilog)を協議し SystemVerilog-2008 に統合予定とした。新規設計言語候補である Esterel,E-language,FinSimMath,SystemC,Verilog-AMS に関し Interoperability などを確認した。
・WG２：IEEE とのデュアルロゴでの処理案件(WG2 単独２件,WG7 共同 4 件)を確認し、新規案件候補(IEEE1666 Open SystemC)とメンテナンス案件候補(IEEE1364 Verilog-2005,IEEE1076c VHDL-2007)を選定した。併せて IEC 登録番号の体系化を提案することを決めた。２つの Power フォーマット業界標準の課題に対し問題の認識合せができ、Unified 標準を目標にすることを決めた。Feeder 組織 Accellera で進めている UCIS(Unified Coverage Interoperability Standard)が EDA ベンダー間調整が難航しており要警戒である。
・WG3：製品属性情報交換方式 PDX(Product Data eXchange)の中で、部品表（BOM）について検討し、TC111 との連携を考慮し、環境情報を加え、NWIP 化することを決めた。
・WG５：TR62017-1,-2(EDA Technology Roadmaps)や TR61908(Conformance tests Guideline)の保守の段取りを決めた。
・WG６：環境情報を含む電子カタログの流通方式の方向性を明確化し実証実験による要件分析プロセスを決めた。
・WG７：デュアルロゴ案件 IEEE1641 を確認した。さらに IEEE SCC20 の ATML(Automatic Test Markup Language) IEEE1671.3 のデュアルロゴ検討状況が報告された。
・ＪWG11：IEC61182-10(CAD to CAD transfer)の実用化を促進するため、ツールサポート,Gerber フォーマットからの変換を進める。

＜課題＞P メンバー国参加増が最重要課題。今次会議への韓国の参加を足掛かりに中国の活動活性化を進めると共に欧州各国の P メンバー復帰を図る。2008 年会議は IEC 総会開催国(ブラジル)の他にアジア地域での開催も検討。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：　3-3／TC100/TA5-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 8 月 7 日

（報告者記載）整理番号：H19TC100/TA5①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：濵田 靖司　報告書作成者氏名：　濵田 靖司　（会社名）日本電気

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA5 (半角)
PT 60728-13	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	ケーブルネットワーク
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2007 年 7 月 23 日 ～ 2007 年 7 月 24 日		
開　催　場　所	（国名）日本	（都市名）東京	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	日本	幹事国　フィンランド	
参　加　国及び 参　加　人　数	2 ヶ国、主な国名 日本(8 名)、ドイツ(2 名)、参加人数（10）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 松本檀（日本ケーブルラボ）、松本卓三（古河電工）、山浦浩（八木アンテナ）、ラッカパン･バラスブラマニア（シンクレイヤ）、渡辺治雄（東芝）、三尾識（日立）、高田薫（JEITA）、濵田靖司（日本電気）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

今年１月にフランクフルトでキックオフを行った日本提案の放送用 FTTH システム（Optical systems for Broadcast Signal Transmission）IS 化プロジェクト PT60728 Part13(コンベナ：日本ケーブルラボ 松本檀氏)に関し、海外メンバを招致し日本にて会議を持った。前述キックオフの後、国内関係者(JEITA ｹｰﾌﾞﾙﾈｯﾄﾜｰｸ標準化専門委員会 CATV 対応 Group)により、

・システム記述と測定法記述を一つのドキュメントとして集約
・光システムとしての規定を主眼とした記載（機器単体の性能／測定法規定は既存 IS を引用）
・既存 IS（Part1(下りシステム性能)、Part 6（光機器）、TC87 関係）との記述整合性

等のブラッシュアップを図り、事前配布した。それに対するイタリアメンバからの修正提案(主にエディトリアルな内容)があり、今回会議ではそれをベースにしての内容審議となった。

２日に亘る詳細内容の審議の結果、20 数項目のアクションアイテム(テクニカル内容の調査、エディトリアル修正等)を抽出した。尚、会議後、審議中に修正した箇所を反映させたドキュメントを PT-13 TYO WD-01 rev.1 として関係者へ配布した。

10 月開催予定の TC100／TA5 の全体会議にて、経過報告および今回の結果を踏まえた継続審議を行う予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 9

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC100/TA5-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2007 年 10 月 16 日
予算番号：	H19TC100/TA5①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1．組　　織：　番　号　　TC100/TA5
　　名　称（日本語）　ケーブルネットワーク

2．会　　議　名：　PT60728-13（☒単独開催　☐同時開催）
　　☐TC　☐SC　☒TA　☐WG　☒PT　☐その他

3．開　催　期　日：　2007 年 7 月 23 日 ～ 2007 年 7 月 23 日

4．開　催　場　所：　ＪＥＩＴＡ会議室

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	131,306 円	会議費	161,962 円
ｹｰﾌﾞﾙﾈｯﾄﾜｰｸ標準化専門委員会	131,306 円	懇親会費	100,650 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	262,612 円	合計（b）	262,612 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー8 人＋外国人 2 人）］×会議開催日数 2 日×1.5 万円＝300,000 円

補助請求金額　131,306 円
［補助基準･運用規定の補助率(50%)。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2007 年 10 月 16 日
申請責任者：　濱田　靖司

※本報告書は、(様式4)「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC110-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 10 月 11日

（報告者記載）整理番号： H19TC110④⑤⑥⑦

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：森本光孝　報告書作成者氏名：田中宏典　（会社名）松下電器産業

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC110(半角)
TC110	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲﾃﾞﾊﾞｲｽ
WG4	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
WG5	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2007 年 9 月 3 日 ～ 2007 年 9 月 5 日	
開催場所	（国名）中国	（都市名）広州
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	御子柴（電通大）	幹事国　日本
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日、韓、中、米、蘭、、参加人数（36）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○御子柴(電通大)、○岩間(日本 ChiMei)、○田中(松下電器産業)、○石黒(シャープ)、○篠田(広島大)、○森本(NEC)、○打土井(パイオニア)、○安藤(松下電器産業)、○田辺(パイオニア)、○浅井(ソニー)、池田(エスペック)、○依田(大塚電子)、前川(コダック)、岡村(コーニング)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. TC110

TC110 の第 5 回会議は、中国広東省広州市で傘下 3WG の会議と同時に開催された。昨年末の大津会議とほぼ同数の参加者があり、相変わらずの盛況であった。ホスト側の中国政府信息産業部を始め、広東省、広州市などの関係者の関心も高かった。WG2(LCD)、WG4(PDP)、WG5(OLED)の大津会議以降の進捗状況報告があり、今後のスケジュールの見直し提案も含めて承認された。各デバイス間の横断的ハーモナイゼーショングループ(HHG)、TC100 とのJWG/PT62487(MT62087 に改称)「テレビ受信機の消費電力」、両グループ活動状況の報告あり。韓国提案「LCD のバックライト測定法」の取り扱いについて論議。TC34(照明機器)に打診し、不可の場合は TC110 直属のプロジェクトとする可能性あり。次回の開催予定(候補)は、SID2008 に絡めて 5 月のロサンゼルス。

2. WG2

61747 シリーズの Part 6-2「反射型モジュール測定方法」、Part 5-2「AM モジュール外観検査法」、Part 6-3「AM モジュールの動画ボヤケ測定法」、いずれも 2CD の審議が進展、CDV 化を進める。Part 5-3「ガラス強度、信頼性の測定法」の PAS 発行を確認。2008 年予定の MC2 件(Part 5&6)は 2010 年に延期を提案。次回は 12 月、IDW 直前に札幌で開催の予定。

3. WG4

61988 シリーズの Part 2-3「測定方法ー品質」(CDV)と Part 2-4 の「測定方法ー表示品質」(1CD)の 2 件の審議に集中。Part 3-2「電気的インタフェース」と Part 5「一般仕様」は CDV の回付中、Part 4「環境試験法」の IS 化を確認。MC3 件(Part 1, 2-1&2-2)の予定変更は当面なし。次回は WG2 と同様、12 月の札幌を予定。

4. WG5

62341 シリーズの Part 1-1「一般仕様」は FDIS に、Part 5「環境試験法」は CDV に、それぞれ進める。Part 6-1「測定方法ー光学的、電気光学的パラメータ」は CDV 回付中。Part 6-2「測定方法ー表示品質」の NW を検討。Part 1-2「用語の定義」の APUB は 11 月になる。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／CISPR-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 9 月 13 日

（報告者記載）整理番号：H19CISPR①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：玉田正信　報告書作成者氏名：堀　和行　（会社名）ソニー(株)

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	CISPR SC-I (半角)
CISPR I WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称(日本語)	マルチメディア機器等に関するEMC
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2007 年 8 月 27 日 ～ 2007 年 8 月 30 日		
開催場所	（国名）アメリカ	（都市名）デンバー	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Ronald Storrs/Mark Arthurs	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	11 ヶ国、主な国名 英国、フランス、イタリア、デンマーク、ドイツ、米国、参加人数（36）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ ○千代島 敏夫(PFU(株))、○堀 和行(ソニー(株))、雨宮 不二雄(NTT アドバンストテクノロジ(株))、山口 高(日本 IBM)、長部 邦弘(㈱電磁環境試験所認定センター)、秋山佳春(NTT 環境エネルギー研究所)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

WG2 は、マルチメディア機器のエミッション規格 CISPR32 の検討を担当している。3 月に発行された 2nd CD に対し 1000 を越えるコメントが寄せられたため、事前に編集グループによって検討、準備された各国コメントの反映版と、議論が必要なコメントリスト、新提案の許容値表、Annex C,D,G, 大幅に追加修正された Annex E,F について今回審議した。主な決定事項を以下に示す：

(1)複数測定法に対する扱い：IEC directive の要請である「複数の試験方法を記述する場合は、規準（reference)を決めること」を理由に、0ATS/SAR を規準にすべきと日本からコメントしたが、結論は上位委員会での審議結果を待つことになった。9月の CISRP 総会@シドニーにて IEC ACEC へ提案するかどうか審議され、合意された場合、ACEC へ報告され、次回 ACEC 会議(12 月開催)で審議される。

(2)許容値表：2nd.CD の許容値 Annex A,B は、わかりにくい、くり返しが多い、適用が複雑である等の問題が指摘された。解決案として、CLASS A/B を統合した許容値表が提案され、基本的に合意された。また、測定距離によって EUT の幅サイズを制限する表は削除され、NSA を満足する範囲に収まればよいとした。

(3)受信機関連：①受信機の定義～放送用受信機以外は除外する。②受信機の最高測定周波数～受信機(局発)の測定周波数上限は 1GHz。③受信機の測定条件～アンテナポートに AAN を接続(150ohm 終端)して伝導妨害測定を行う。

(4)クラス分けの定義修正：複数の環境のどれに相当するか明確にし、許容値は測定方法と関連していることを明確にした。(放送用受信機は、AnnexB の要求事項を満足すること)

(5)表示条件修正：･H文字スクロールを復活する提案があり、TF で再度検討することになった。

(6)その他：①RFIN/OUT の 30MHz 以下の伝導妨害～日本提案の伝導コモンモード妨害測定について、RF IN/OUT ポートのみにする案は、定義の問題と絡んでいること、ケーブルが２本の場合は不要であること、CATV 用ポートは対象であることなどが確認された。長いケーブルには必要。受信用アンテナケーブルは、比較的短いので対象外という意見があった。②同軸ケーブルの遮蔽効果の試験方法～ＴＦからのレポートが提出されシドニー会議で議論する。③測定距離の定義～回転台の回転と無関係な定義が提案されたが、結論はでなかった。ＴＦで検討する。

今後の予定は、10 月に CD を完成,、11 月末にセクレタリに送付し、３ヶ月間コメントを募集、締切は 08 年２月末となる。その後、編集グループにて、3 月に編集作業が行われ、CC 文書が発行される。WG2 を 5 月か 6 月に欧州で開催し、10 月の CISPR 大阪会議にて CDV 化の審議を行う。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：3-3／SC31-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2007 年 8 月 7 日

（報告者記載）整理番号：H19SC31②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　　報告書作成者氏名：　小橋　一夫　（会社名）JEITA

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	SC31 (半角)
SC31/WG4/SG1	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	自動認識及びデータ取得技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2007 年 7 月 18 日 ～ 2007 年 7 月 20 日		
開　催　場　所	（国名）日本	（都市名）葉山町	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Rick Schuessler	幹事国　（米国）	
参　加　国及び 参　加　人　数	4 ヶ国、主な国名 米国、英国、韓国、日本、参加人数（17）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 澤田喜久三(吉川 RF)、江原正樹(東京工科大)、渡辺淳(デンソーW)、吉岡稔弘(AI 総研)、菅野博靖(富士通)、柴田彰(デンソーW)、寺浦信之(デンソーW)、小橋一夫(JEITA)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．概要

今回は、ISO/IEC24791（ソフトウェアシステムインフラストラクチャ）の WD 審議、ISO/IEC15962 と 15961 の改定の WD 審議、及び ISO/IEC24753（センサー情報）の審議が行われた。

2．内容

(1) ISO/IEC24791（ソフトウェアシステムインフラストラクチャ）

・パート 1(アーキテクチャ)についての議論がなされた。内容は事前にアドホックグループで検討され、会議向けに配布された WD の REV0.4 版に基づいて行われた。
基本的には、アドホックのドラフトは了承された。ただ、センサー情報を 24791 でユーザ情報の一つとして扱うのかについてが議論となった。WD にはセンサーデータも 24791 の範囲として記載されているが、センサー情報は 24793 と 15961 で 24791 とは別に扱うという議論があった。結論はでていない。

・また、24791-4（アプリケーションインタフェース）が、現状の WD では、実質的には含まれていないが、これが、必要かどうかの議論がなされた。韓国の Park 氏は必要との意見。
但し、パート４は現状プロジェクトエディタがおらず、WD も無い状態であり、内容が明確になっていない。

・日本からは、パート２に関して、平成 18 年度実施した、RFID]ミドルウェアの開発内容の発表及びデモンストレーションを行った。タグデータプロファイル方式の仕様に関しての活発な質問があり、仕様についての理解が SG1 委員の間で相当深まった。WD にもっと詳細な仕様の説明の追加を求められた。

(2) ISO/IEC 15962/15961

・15962 の改定の WD が Paul より、会議直前に配布され、それについての議論がなされた。

・データコンパクション方式だけでなく、18000-6C 用のアプリケーションコマンド（以前は 15961-1 で規定）を 15962 にもってきているが、これについての基本的なコンセンサスは得られなかった。また、15961-1 の WD も事前配布されていたが、このパートからは、アプリケーションコマンドの詳細は除去されていた。

(3)ISO/IEC 24793

・IEEE1451.7 の活動報告が主になされた。1451.7 でも RFID のアクティブタグを想定した規格化が進んでいる。24793 とはリエゾン関係にあり、両方の規格化のシンクロナイズの必要性が議論された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 9

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC31-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日： 2007年 10月 16日
予算番号：H19SC31②

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　SC/31
　　名　称（日本語）　自動認識及びデータ取得技術
2. 会　　議　名：　SC31／WG4／SG1（ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ ｲﾝﾀﾌｪｰｽ ﾌﾟﾛﾄｺﾙ）（☒単独開催　☐同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☒その他
3. 開 催 期 日：　2007年 7月 18日 ～ 2007年 7月 20日
4. 開 催 場 所：　葉山町（湘南国際村センター）

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	123,615円	会議室料（含、備品・追加利用）	45,500円
AIDC委員会	180,623円	事務局宿泊費等	68,700円
日帰り参加者(昼食代として)	4,800円	日帰り参加者昼食代(ｷｬﾝｾﾙ込)	7,200円
	円	Welcome Dinner 等	33,000円
	円	ケータリング	105,000円
	円	事務処理委託料	49,638円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	309,038円	合計（b）	309,038円
		（a）－（b）	0円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー8人＋外国人9人）］×会議開催日数3日×1.5万円＝765,000円

補助請求金額　123,615円
［補助基準･運用規定の補助率(40%)。上限は300万円。］

以上の通り報告致します。　　2007年10月 16日
申請責任者：　柴田　彰

※本報告書は、(様式4)「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06様式 2007.9）